

# 新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。  
世界的な東洋史学者「内藤湖南」、  
十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の  
両氏をメインに常設展示し、  
さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

## 鹿角に病院を創った湯瀬勇七と小笠原達

R 2. 4. 1 ~ R 2. 9. 30



鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2  
TEL 0186-35-5250

## 先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

### ◆第1次展示 H2.7-H3.6

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田島樹人 (1885-1959)	気品に富んだ作曲家	(花 輪)
関直右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

### ◆第2次展示 H3.7-H4.6

小田島由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花 輪)
浅井 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大 湯)
田村 徳治 (1886-1958)	日本行政学の創設者	(花 輪)
大里武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花 輪)
渡部 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

### ◆第3次展示 H4.7-H5.7

阿部 恭助 (1886-1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山第四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花 輪)
諏訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大 湯)

### ◆第4次展示 H5.8-H6.7

田中 北嶺 (1838-1918)	「戊辰戦役図絵」を描く	(毛馬内)
坂田 祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大 湯)
大里 周蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化医師	(花 輪)
栗山文次郎 (1886-1965)	かづの古代茜、紫根染の大家	(花 輪)
高杉重右衛門 (1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

### ◆第5次展示 H6.8-H7.9

浅利 佐助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花 輪)
宮城佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花 輪)
伊藤 良三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林平 (1888-1918)	将来を嘱望された天才数学者	(毛馬内)
阿部 貞一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)

### ◆第6次展示 H7.10-H8.9

児玉 高慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花 輪)
阿部 六郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花 輪)

### ◆第7次展示 H9.10-H10.9

内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅江真澄の研究	(八幡平)
豊口鋭太郎 (1873-1952)	秋田県教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 靈山 (1882-1945)	スケールの大きい気骨の書家	(毛馬内)

### ◆第8次展示 H11.11-H12.10

高橋 克三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)
-------------------	-----------------	-------

### ◆第9次展示 H12.11-H13.11

黒沢 隆朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花 輪)
大里 健治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

### ◆第10次展示 H13.12-H14.11

石田 収蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花 輪)
-------------------	------------	-------

### ◆第11次展示 H14.12-H15.11

石川 伍一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)
-------------------	----------	-------

### ◆第12次展示 H15.12-H16.11

小松 五平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大 湯)
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花 輪)

### ◆第13次展示 H16.12-H17.11

相川善一郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花 輪)
馬淵テフ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

### ◆第14次展示 H17.12-H18.11

川口 月嶺 (1811-1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花 輪)
泉澤 織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870)	学問のお師匠様泉澤家	(毛馬内)

### ◆第15次展示 H18.12-H19.11

佐藤要之助 (1859-1892)・良太郎 (1878-1912)	鹿角りんごの礎を築いた父子	(花 輪)
佐藤 良雄 (1906-1977)	カルザスのチェロを日本に広めた	(花 輪)

### ◆第16次展示 H19.12-H20.11

小田島艸子 (1882-1969)	花輪俳談会を創立	(花 輪)
鎌田 露山 (1891-1966)	毛馬内俳句会を設立	(毛馬内)

### ◆第17次展示 H20.12-H21.11

山先 青山家の人々	山相家 青山の名を高めた	青山庄蔵栄重	(尾去沢)
山先 川口家の人々	欧米の採鉱技術を学んだ	川口理伸太	(尾去沢)

### ◆第18次展示 H21.12-H22.11

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の開拓者	(毛馬内)
-------------------	-----------	-------

### ◆第19次展示 H23.3-H24.3

先人顕彰回顧展	浅利佐助他パネル展示
---------	------------

### ◆第20次展示 H24.10-H25.3

和井内貞行「没後90年展」	十和田湖開発の父	(毛馬内)
---------------	----------	-------

### ◆第21次展示 H25.6-H25.12

柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)
-------------------	--------------	-------

### ◆第22次展示 H26.8-H27.6

内藤湖南「没後80年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)
--------------	----------	-------

### ◆第23次展示 H27.6-H28.3

畠山文象遺墨展	書道の発展に寄与	(毛馬内)
---------	----------	-------

### ◆第24次展示 H28.4-H29.3

内藤湖南「生誕150年展」	東洋史学の開拓者	(毛馬内)
---------------	----------	-------

### ◆第25次展示 H29.4-H30.3

岩館 知義 (1925-2016)	郷土鹿角が生んだ風景画の詩人	(大 湯)
松岡 隆一 (1924-2016)	土着性を追求した画家	(花 輪)

### ◆第26次展示 H30.4-H31.3

戊辰戦争の中の鹿角 ~150年の時を超えて~	田中北嶺「戊辰役図絵」
------------------------	-------------

### ◆第27次展示 H31.4-R元.9

真澄研究者 内田武志・ハチ兄妹とゆかりの人びと	(尾去沢)
-------------------------	-------

### ◆第28次展示 R元.10-R2.3

内田武志・ハチ兄妹と菅江真澄の歩いた鹿角	(尾去沢)
----------------------	-------

### ◆第29次展示 R2.4-R2.9

鹿角に病院を創った湯瀬勇七と小笠原達	(花輪・大湯)
--------------------	---------

# はじめに

今年度上半期の展示は、鹿角の医療史に燦然と輝く、立志伝中の2人の人物を取り上げました。

実は2人の素顔については、きわめて対照的なのです。小笠原達については、古来から名湯として人々に親しまれてきた大湯の地で、温泉を活用したリハビリテーションに先駆的な役割を果たした人物としてあまねく知られています。

一方、湯瀬勇七は、昭和の初めに花輪の地に7科を擁する総合病院を創設したのにもかかわらず、2年ほどで組合病院に引き継がれてしまったことや、42歳の若さで病没したことなどにより、その姿はようとして見えません。いわば、その人生は謎だらけなのです。

しかしながら、2人とも鹿角の住民の切なる願いに対し、大きな夢を成し遂げた点では一致していると思います。どうぞ、つたない展示ではありますが、2人の人柄をしのぶよすがとしていただければ、幸いと存じます。



# リハビリ温泉医療に生涯を捧ぐ

Tooru Ogasawara

小笠原 達

おがさわら とおる

1923-1990 (大湯)



東北大学医学部附属鳴子分院長の杉山尚教授と運命的な出逢いを経て、生涯の目標となる温泉療法の研究に没頭した。昭和31年『温泉飲用の腸内細菌叢に及ぼす影響』で医学博士の称号を取得。医学研究を極めようとしていた矢先、父の病気により翌年帰郷、34歳の若さで大湯医院長となる。昭和46年、地域住民ため大湯医院にリハビリ医療の各種機器を導入、温泉リハビリ病棟を新設した。昭和53年11月、東北大学名誉教授杉山尚を団長とする西ドイツなどの温泉医療施設を視察し、大湯の地に同様な施設を実現する思いを新たにす。昭和54年7月、全国で唯一の民間の大湯リハビリ温泉病院が完成した。永年の功績により、勲五等双光旭日章に叙せられる。

## 略歴 a brief personal record

- 大正12年(1923) 大湯医院開業医の三春とツルヨの二男として大湯村に生まれる。
- 昭和23年(1948) 東北大学医学部を卒業、28年、同医学部附属鳴子分院助手となる。
- 昭和32年(1957) 大湯医院を継ぎ、大湯医院々長となる。
- 昭和46年(1971) 大湯医院にリハビリ医療の機器を導入し、リハビリ病棟を新設する。
- 昭和53年(1978) 東北大学杉山名誉教授と共に西ドイツなどの温泉医療施設を視察する。
- 昭和54年(1979) 大湯リハビリ温泉病院を開設する。
- 平成2年(1990) 9月28日病没、享年67歳。

# 厚生病院の前々身、私立花輪病院の創設者

Yushichi Yuze

湯瀬 勇七

ゆぜ ゆうしち

1898-1940 (花輪)



明治・大正期から花輪町には本格的な病院を望む声が強かったが、財政難のために実現に至らなかった。そんな中、親族や地元の資産家から協力を仰ぎ、自らも私財を投げ打って、昭和7年私立花輪病院を創設。内科・外科など7科を要する堂々たる総合病院であった。長男の正人が病気で十分な治療を受けられずに亡くなったことが病院創設を決意させたと伝えられる。院長に義弟の医学博士村松正雄を招聘し前途洋々かに見えたが、創業当初から経営難に陥り、わずか2年ほどで終焉を迎えることとなった。

その後、病院は院長はじめ職員・施設もろとも鹿角医療組合総合病院に引き継がれたが、湯瀬は花輪に初めて総合病院を設立したという点で、鹿角の医療史に不滅の名を刻む。

## 略歴 a brief personal record

- 明治31年(1898) 虎之助の二男として、毛馬内に生まれる。花輪横町に居住、一時尾去沢鉱山に勤務すると伝えるが、年代不明。
- 昭和7年(1932) 6月3日、内科・外科など7科を擁する私立花輪病院を設立。
- 昭和9年(1934) 経営難で終焉を迎え、鹿角医療組合総合病院に引き継がれる。
- 昭和15年(1940) 9月30日、死去。享年42歳。